



はせやまの風



舞鶴市立新舞鶴小学校だより

令和8(2026)年10月1日発行

白糸中学校区「目指す子ども像」

自ら学ぶ子・人とつながる子

心も体も鍛える子・ふるさとを愛する子

学校HP



天高く 馬肥ゆる 秋 ～実り多き秋 一段とたくましく～



朝夕の風に心地よい涼しさを感じる季節となりました。見上げれば空は高く澄み渡り、校庭の木々も少しずつ秋の装いを見せ始めています。木々には実がつき、春から夏にかけて蓄えてきた力を実りという形で表す季節を迎えました。

ドイツの作家ヘルマン・ヘッセは、「木々は最も優れた教師である」という意味の言葉を残しています。木々はそれぞれ違った姿をしています。まっすぐ空へ向かって伸びる木もあれば、大きく枝を広げる木もあります。また、花を咲かせる時期や実を結ぶ時期も一つとして同じではありません。しかし、どの木も自分の根をしっかりと大地に張り、自分らしい姿で成長しています。

これは子どもたちの姿にも重なります。勉強が得意な子、運動が得意な子、人に優しく声をかけられる子、こつこつ努力を続けられる子など、一人一人のよさはさまざまです。つい私たちは周りの子と比べてしまいがちですが、本来、成長の速さや実りの時期は人それぞれ異なるものです。学校生活の中でも、すぐに成果が見えることばかりではありません。毎日のあいさつを続けること、友達の話最後まで聞くこと、苦手なことにも挑戦することなど、一見すると小さな積み重ねが、やがて大きな成長につながっていきます。木が長い時間をかけて幹を太くし、根を伸ばしていくように、子どもたちも日々着実に力を蓄えています。

保護者の皆様には、ぜひお子様を他の誰かと比べるのではなく、「入学・進級した当初のわが子」と比べていただければと思います。以前はできなかったことができるようになったり、少しずつ自信を持って行動できるようになったりしている姿に気付かれることでしょう。

実りの秋を迎えた今、子どもたち一人一人がもつ可能性という種が、それぞれのペースで育ち、実を結んでいることを改めて感じます。私たち教職員も、子どもたちがしっかりと根を張り、自分らしい花を咲かせ、自分らしい実りを迎えられるよう、これからも温かく支えてまいります。ご家庭におかれましても、お子様の小さな成長や努力を認め、励ましながらい守っていただければ幸いです。

校長 亀井 敬介 教職員一同

【令和8年度全国学力・学習状況調査の結果について】(6年生)

4月23日(木)に実施した全国学力・学習状況調査の結果概要をお知らせします。調査結果では、正答率が国語61%、算数54%と、それぞれ全国平均に近い結果でした。今回の調査では次のような状況が見られました。



【国語】

漢字の活用や文章を読んで自分の考えをまとめる問題で高い正答率を示し、「読むこと」の領域では全国平均を上回る結果となりました。また、自分の経験と結び付けて考えを書く力も身に付いています。一方で、資料や情報を根拠として自分の考えを分かりやすく書くことや、文章構成を工夫して記述することには課題が見られました。今後は、文章や資料を読み取り、根拠を明確にしながら自分の考えを書く活動を充実させるとともに、友達との交流を通して表現を見直し、より分かりやすく伝える力を育成していきます。

【算数】

小数や分数の基礎的な計算、体積の求め方などの知識・技能に関する問題で良好な結果が見られました。特に、条件に合う数をつくる問題では高い正答率でした。一方で、割合の意味を理解して活用する問題や、表やグラフから必要な情報を読み取り、理由や考え方を説明する問題では課題が見られました。今後は、日常生活と結び付けながら数量関係を考える学習や、図・表・グラフを活用して考えを説明する活動を取り入れ、思考力・判断力・表現力の向上を図っていきます。

【児童質問紙】

朝食を毎日食べる児童が多く、人が困っているときに進んで助けようとする意識や、学校生活への満足感、学習内容を振り返り、次につなげようとする姿勢が見られました。一方で、「自分にはよいところがある」と感じる自己肯定感や、「困ったときに先生や大人に相談できる」と答えた割合は全国平均を下回り、学習への自信や主体的な学習にも課題が見られます。今後は、一人一人の頑張りや成長を認める声かけを充実させるとともに、安心して相談できる環境づくりや、対話的な学習活動を通して、児童自身が自信を持って学びに向かう力を育てていきます。